

# 鈴鹿山脈から琵琶湖まで、つながりを生かした

## 第2次東近江市環境基本計画

# 地域の財産 ー歴史・文化ー

- 縄文時代草創期～現代まで  
遺跡数 514遺跡、指定文化財 325
- 惣村自治  
惣掟による自治の仕組み
- 木地師発祥の地  
轆轤の技術は全国に広がる
- 近江商人発祥の地  
売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」

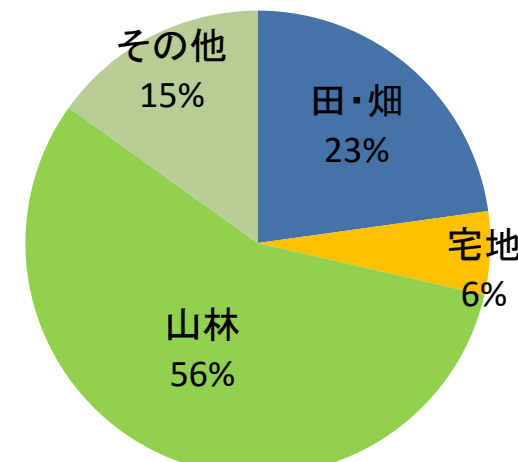
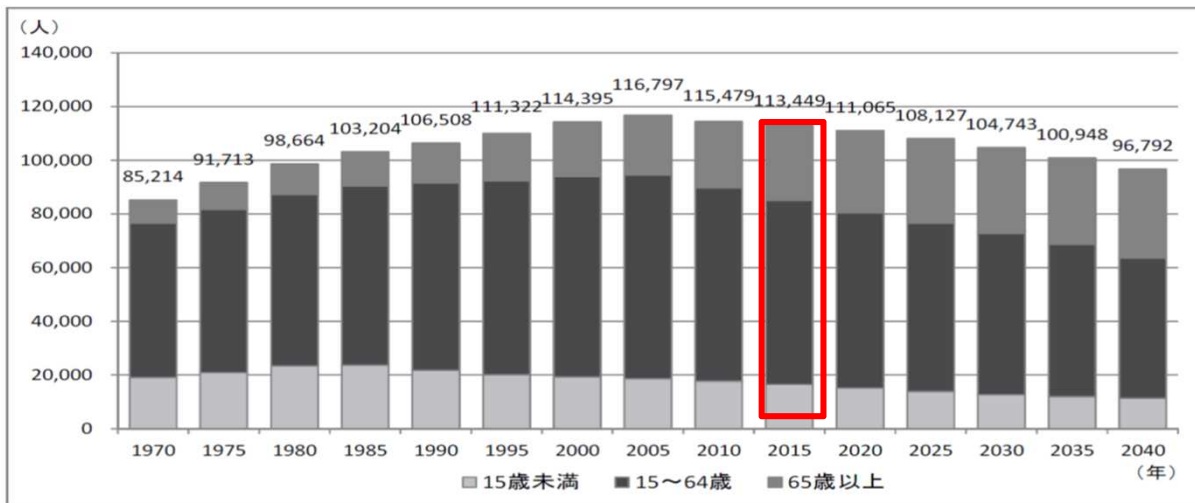


# 1. 東近江市の概要

東近江市は里山・里地・里湖がひとつの水系でつながる、  
1,000分の1スケールの日本

**人口: 114,906人**  
平成29年9月1日現在の住民基本台帳人口より

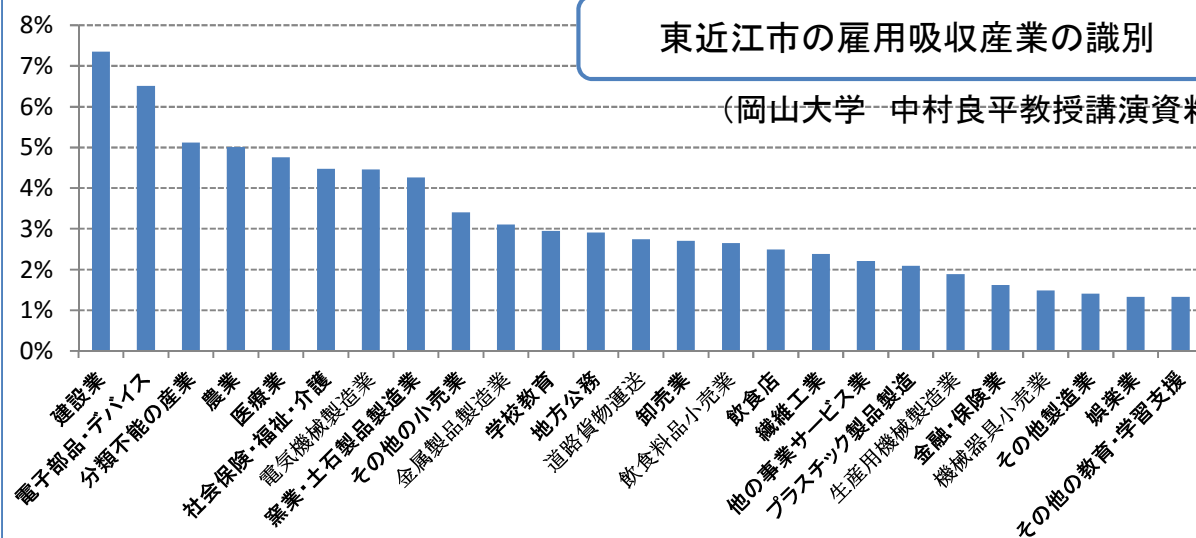
**面積: 388.58km<sup>2</sup>**



資料：各年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所による日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）

## 東近江市の雇用吸収産業の識別

（岡山大学 中村良平教授講演資料）



# 2. 東近江市の地域経済分析(2010年)

東近江市総生産(総所得/総支出) 5,459億円【2010年】

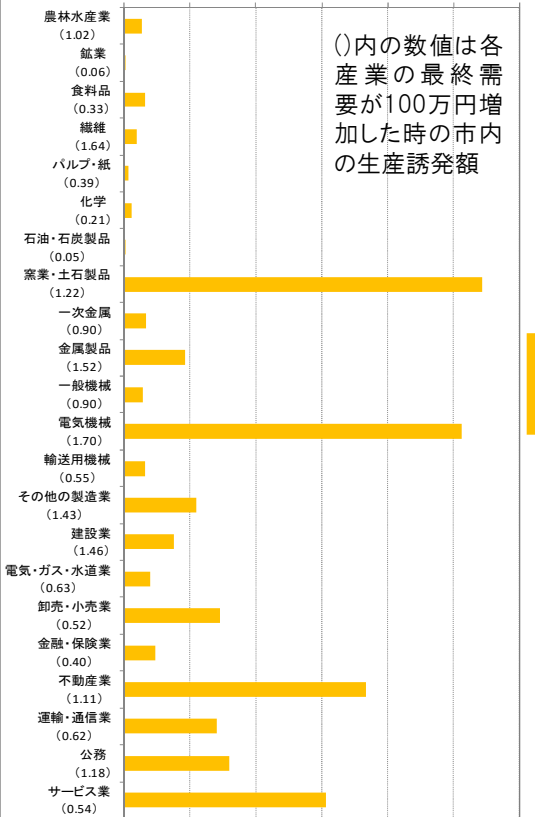
フローの経済循環

## 生産

### 産業別付加価値額

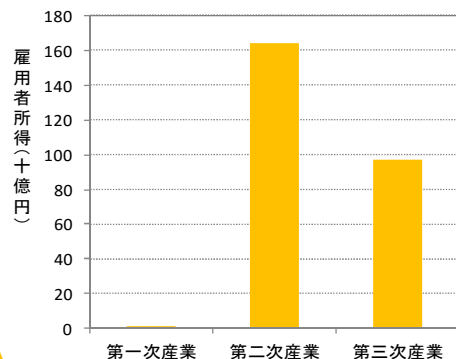
付加価値額(十億円)

( )内の数値は各産業の最終需要が100万円増加した時の市内の生産誘発額

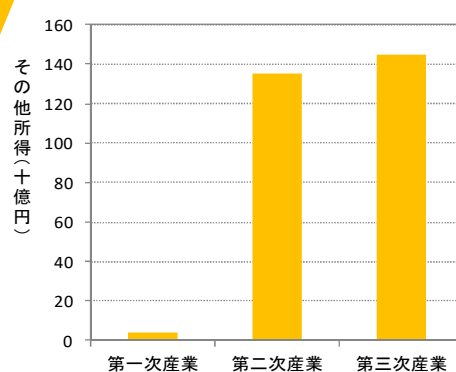


## 分配

### 雇用者所得(2,620億円)



### その他所得(2,840億円)



## 支出

### 消費

2,739  
億円

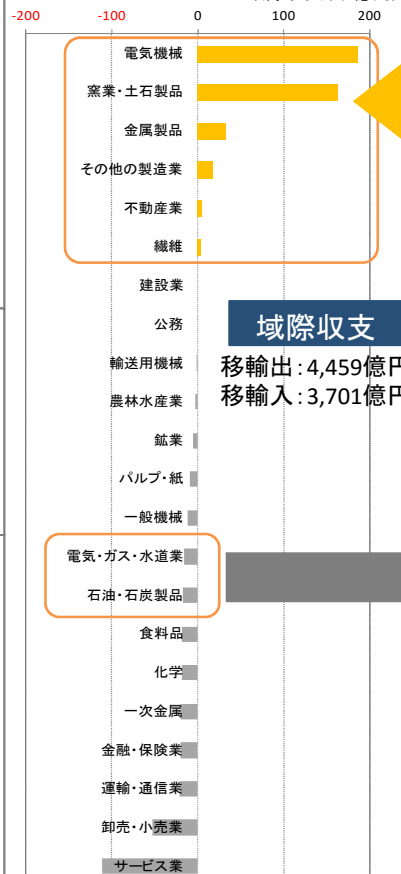
### 投資

644  
億円

### 政府支出

1,080  
億円

域際収支(十億円)



### 域際収支

移輸出: 4,459億円  
移輸入: 3,701億円

## 地域外

消費の流出:  
約682億円の流出  
(市民の消費額の約20%)

資金の獲得:  
電気機械、窯業・土石製品、  
金属製品、その他の製造業  
等

エネルギー代金の流出:  
約332億円  
石油・石炭製品: 約174億円  
電気・ガス: 約157億円

投資の流出:  
約0.5億円  
(地域内投資額と地域企業  
投資額がほぼ同額)

金融機関等

### 自然資本(環境)

例: 森林豊かな鈴鹿山脈、  
市域の中央を流れ琵琶湖  
に注ぐ愛知川

### 人的資本

例: 平成17年から22年にか  
けて人口減少、高齢化  
の進行

### 人工資本

例: 製造業の集積、近江  
鉄道、名神高速道路など

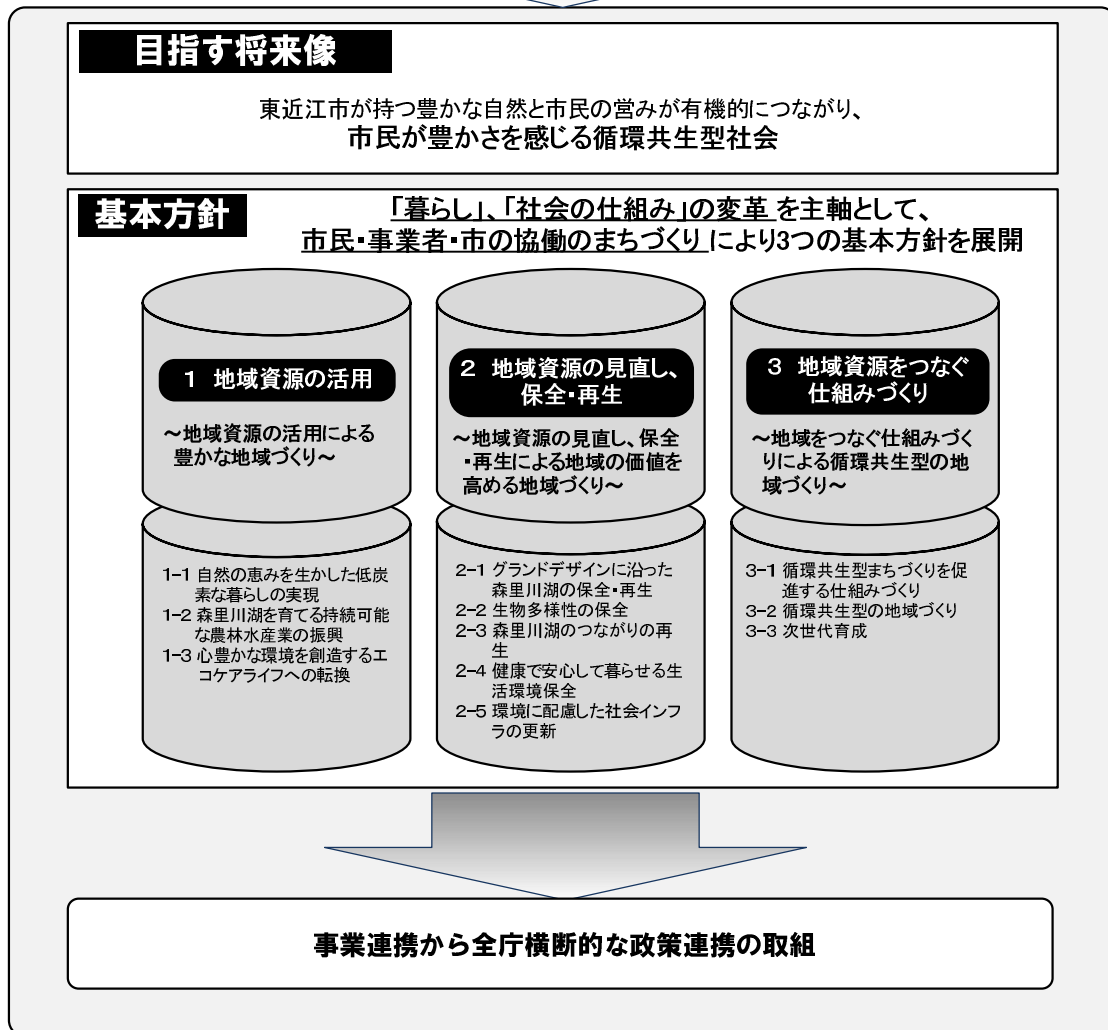
### 社会関係資本

例: 多分野連携の取組、  
地域の拠り所事業 など

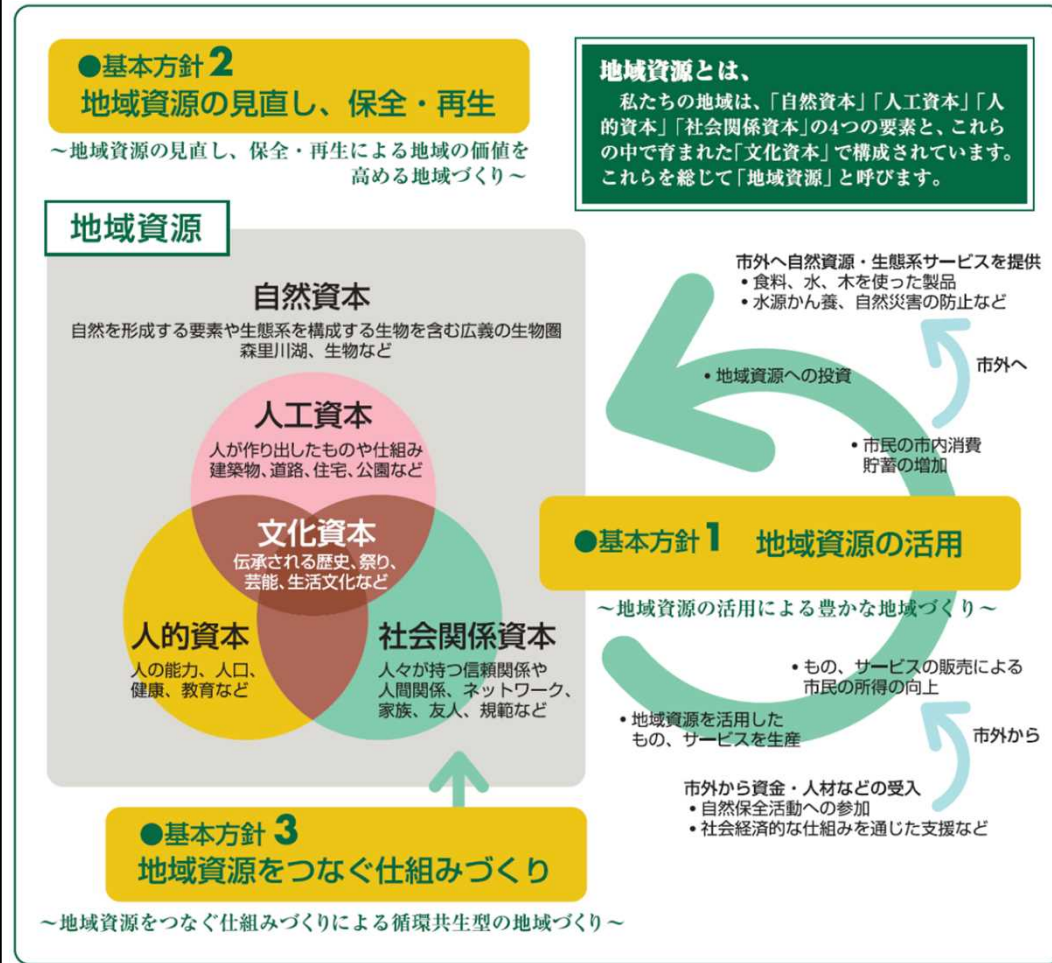
# 3. 第2次東近江市環境基本計画

課題		
＜東近江市が直面する課題＞		
<b>環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資源の大量消費</li> <li>○ 暮らしの安全基盤の確保</li> <li>○ CO<sub>2</sub>排出量の増加</li> <li>○ 多様な自然環境の維持</li> <li>○ 生物多様性の衰退</li> <li>○ 歴史・文化資源の継承と活用</li> </ul>	<b>経済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域産業による地域資源の活用</li> <li>○ 地域産業の後継者不足</li> <li>○ 市外消費、化石燃料等の購入による資金流出</li> <li>○ 農林水産業の後継者不足と農地等の管理</li> </ul>	<b>社会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人口減少、超高齢化、少人数世帯化</li> <li>○ 集落活動の維持、人と人とのつながりの希薄化</li> </ul>

環境基本条例の理念（低炭素・資源循環  
自然共生、歴史文化、生活環境、協働）  
に沿った統合的アプローチ



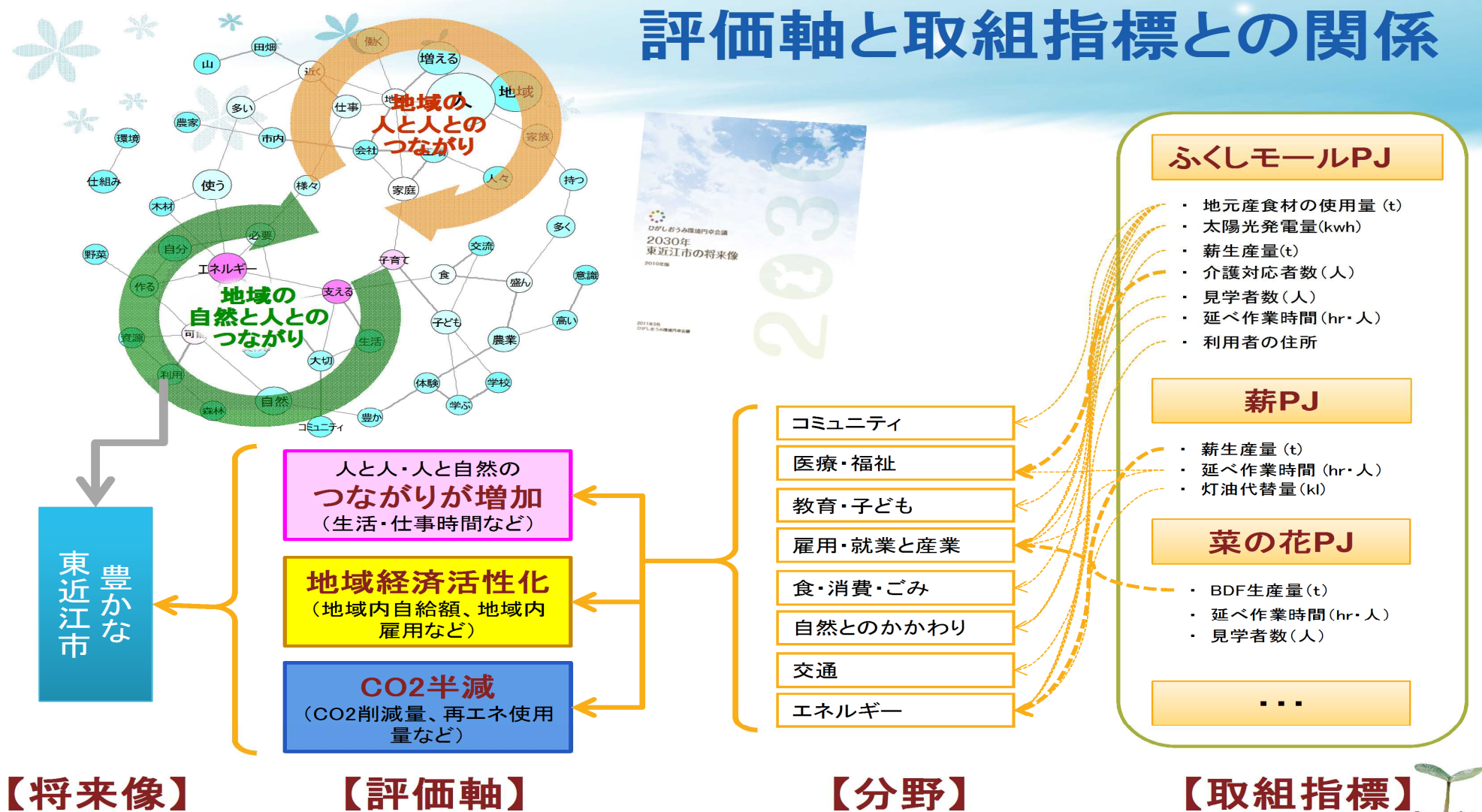
鈴鹿山脈から琵琶湖まで一つの流域である自然資本をベースに、人と人、人と自然のつながりを生かし、環境・経済・社会の統合的向上により、市民が豊かさを感じる地域像を実現します。「地域資源」を活用して、市内だけでなく市外とも共生の関係性をつなぐ「地域循環共生圏」のモデル事業に取り組んでいます。



# 4. 市民による評価指標、進捗管理の仕組みの構築

本プランの将来像を実現するためには、市民・事業者・行政との協働が不可欠です。このため、将来像の実現に向けた様々な取組を評価する指標と進捗管理の方法を、学識経験者・市民・事業者の代表で構成する「東近江市環境円卓会議」で策定します。評価指標は住民目線の「ものさし」で、様々な取組・施策により、将来像に近づいているかどうか実感できるものとして、市民の取組を指標として設定します。この取組指標をもとに、市民による進捗管理のしくみと多様な主体が集まる場(プラットフォーム)を構築します。

## 評価軸と取組指標との関係



# 5. 第2次東近江市環境基本計画 実現のための体制図

## 東近江市環境審議会

### 【東近江市環境円卓会議】(環境基本計画に位置付け)

市民・事業者・行政・専門家等が対等の立場で参加し、共通のテーブルで将来像の実現に向けた計画の進捗管理・課題抽出・政策提言を行う。運営委員会を設置し活動する。

- ・指標のチェック(CO<sub>2</sub>, 円, つながり時間の視点を含む)
- ・将来像と取組の進捗状況をわかりやすく伝える
- ・課題抽出・課題共有の場作り

例) エコツーリズム推進協議会  
・地域資源の掘り起こし  
・エコツーリズムの提案・情報発信  
・エコツーリズムの試行

例) 森おこしプロジェクト  
・イヌワシの棲む森づくりの実現  
・森林資源を活用したコミュニティビジネスの支援

### 【一般財団法人東近江三方よし基金】

H29年6月12日設立  
地域金融機関、事業者、NPO、行政等が参加し、環境基本計画の実現に向けた活動の様々な資金調達の支援と、コレクティブインパクトによる課題解決の仕組みづくりをサポートする。

- ・評議員(8名)、理事(18名)、監事(2名)で組織を構成
- ・公益法人化を目指して申請準備中
- ・支援する取り組みの種類

森おこし川おこし湖おこし(自然資本の保全再生)、空き家活用(人工資本の再生)、まご子安心(人的資本育成)、人と人のつながり(社会関係資本充足)、その他地域資源活用(フローを生み出す活動)

地域循環共生圏モデル事業  
にて事業実施

事務局

### 【NPO法人まちづくりネット東近江】(既存の中間支援組織)

- ・情報収集・提供に関わる事業
- ・相談・コンサルティングに関わる事業
- ・交流促進に関わる事業
- ・マネジメントに関わる事業
- ・人材育成に関わる事業
- ・協働推進のためのコーディネートに関わる事業
- ・コミュニティビジネス等の育成・支援に関わる事業
- ・市民活動・NPO、地域コミュニティ、参加と協働等に関わる調査研究事業

非資金的支援

地域金融機関

龍谷大学LORC

東近江市

# 6. 「東近江三方よし基金」の創設

東近江三方よし基金 目指すカタチ

## 資金調達

### 【行政から】

- ・ 目的別補助金の運営委託

### 【市民から】

- ・ 事業指定寄付
- ・ 募金
- ・ 遺贈（遺言による財産寄付）
- ・ 投資信託

### 【事業者から】

- ・ 寄付
- ※金融機関の寄付型預金等
- ・ 融資、出資

### 【その他団体から】

- ・ 休眠預金



#### 休眠預金とは

長期間取引がなく預金者に連絡も取れなくなった預金口座（休眠口座）に預けてある金銭のこと。

（HP：知恵蔵 mini より）

#### 遺贈とは

遺言によって財産を他人に与えること。

（HP：大辞林 第三版より）

Point: **社会的収益の見える化**  
(経済・環境・社会的価値)

Point: **社会的認証(信用)**

## 東近江三方よし基金

地域課題の解決と地域資源を活用した地域活性化を推進するためのコミュニティビジネス等の支援

助成

投資

コーディネート & ハンズオン  
※特定支援のこと

融資



暮らしが変わればエネルギーも変わる



地産地消と循環がキーワード。地域で回すまちづくり



田畑・河川・森林を育て、活用する

### 東近江市の将来像



主力産業の新しい流れと仕事と家庭のバランスのよい暮らし



様々な生き方が尊重され、つながりが地域を支えるまちづくり。



人と職の地産地消

## 活用例

### ●助成

- 公益活動への補助金
- 事業指定寄付制度
- 冠基金による助成制度

### ●助成+融資

- 金融機関との協調融資

### ●融資

- コミュニティ融資

### ●東近江版SIB

- (ソーシャルインパクトボンド)
- 行政補助金等を成果型へ移行

### ●地域通貨

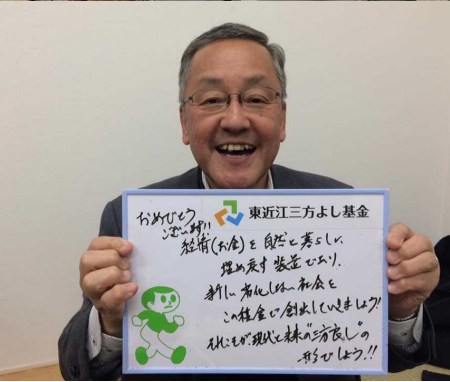
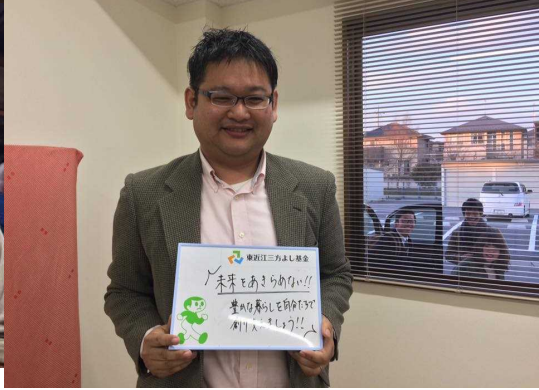
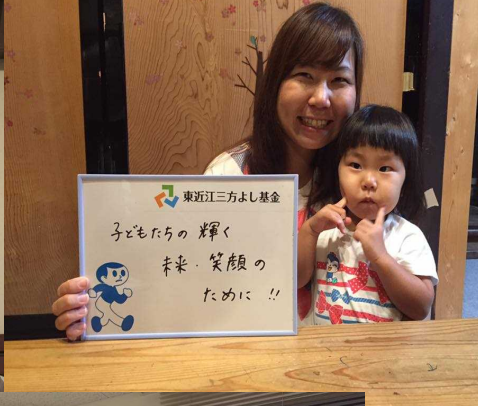
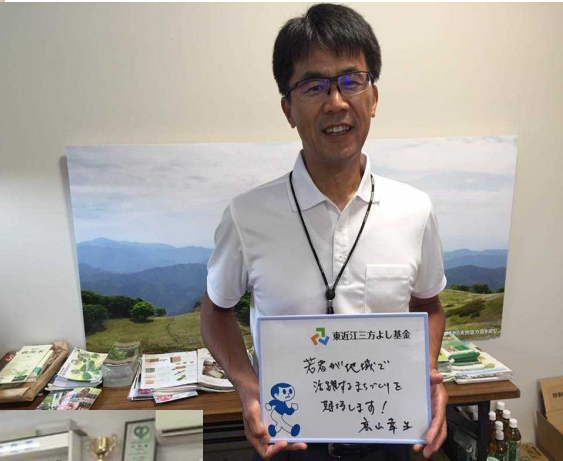
- =人と人をつなぐ交換ツール
- 電子マネーの活用等

非資金的支援  
(中間支援組織と連携)

NPO法人まちづくりネット東近江



# 基本財産となる1,000口達成！



# 支援想定のご具体例

## <事例1：地域材を活用した商品開発>

地域の木材を活用して、地域の森とつながるおもちゃを製作する事業を始める。木組みの技術を生かした木のおもちゃであり、森林資源の有効活用、中山間地域の仕事の創出を目指した。今後は加工器具の充実を図り、事業を拡大したい。

実施主体：株式会社を設立予定



## <事例2：空き家を活用して地域活性化>

御代参街道沿いの古民家（敷地一体）をリニューアルし、ものづくりの拠点、歴史を学ぶ拠点、アートの拠点、生活支援の拠点、子育ての拠点、等地域活性化の拠点としたい。

実施主体：一般社団法人を設立予定



## <事例3：地域貢献型発電事業>

市内の遊休地を活用し、太陽光発電事業を実施する。必要経費を差し引いた売電益は、コミュニティファンドに寄付する。発電された電気は、自治体PPSなどに売電することで地域の再生可能エネルギー普及にも貢献する。

実施主体：一般社団法人または株式会社



自然資本  
～森里川湖～

一般財団法人  
東近江三方よし基金  
(公益認定申請予定)

人的資本  
～次世代育成～

人工資本  
～インフラ～

社会関係資本  
～人と人のつながり～

## <事例4：森を生かした次世代育成と生物多様性保全>

市が整備した河辺林をボランティアで整備し、4歳から小学3年までを対象に子供たちの心に種をまく体験活動を提供している。今後、対象年齢、対象地域を増やすにはスタッフの増員・人材育成が必要。イベントは常にキャンセル待ち状態である。

実施主体：NPO法人



## <事例5：空き店舗を地域活性化拠点に>

コミュニティビジネスの拠点となる空き店舗を改修し、コミュニティカフェを開店。地域のマルシェや観光プランの試行等を企画し運営するまちづくり会社の拠点とする。

実施主体：株式会社等



## <事例6：広葉樹&針葉樹を活用したブランド家具生産>

地域にある森林資源の付加価値向上のため、ブランド家具として生産・販売する。森林整備と雇用の創出に貢献するため、伐採から木材加工・販売までのサプライチェーンをつなぐ。

実施主体：株式会社、一般社団等

